

令和3年度

個別学力検査(後期日程・論述)【 人間学群 教育学類 】

区 分	出 題 意 図 ・ 正 解 例
論 述	<p>集団面接試験の代替として、以下の二つの問いに対して 60 分で論述する試験としている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【問 1】 筑波大学人間学群教育学類を志望した理由について、200 字以内で答えなさい。</p> <p>【問 2】 人の資質を表す日本語はさまざまあります。その中で近年の日本社会で求められるものの一つとして「主体性」があります。また、日本で長く重視されてきたものとして「協同性」を挙げることができます。「主体性」と「協同性」は相反するものと考えますか、それとも調和するものだと考えますか。これまでの自身の経験を盛り込みながら、自らの考えを 800 字以内で論じなさい。</p> </div> <p>問 1 は面接試験で問う基本的な問いであり、受験生に明確な志望理由があるかを確認するものである。明確な志望理由があるかを判断する基準は、(1) 教育学類をいかに理解しているか、(2) 入学後いかなる学修の展望を抱いているかであり、それらが要素として含め込まれ、かつ簡潔にまとめられているかを評価していく。</p> <p>問 2 は、主体性評価の二つの代表的評価観点である＜主体性＞と＜協同性＞を受験生が兼ね備えているかを、自らの経験をふまえた論述を通じて判断しようとするものである。＜主体性＞は独善的な行動を許容するものではない。また＜協同性＞は没個性的・受動的な行動を許容するものではない。これらは、共通の目的をもった集団活動の中で、共通目的の達成のために各人が自らの持っている力を発揮しようとする事へとつながっていく性質である。＜主体性＞と＜協同性＞を両立するためには、目的意識の共有や相互のコミュニケーション、互いに尊重しあう関係性等が求められる。こうした＜主体性＞と＜協同性＞に関わる諸要素を論述のなかにどれほど含めているか、またそれら諸要素をいかに配置・構成し、論理的にまとめられているかを採点の観点とする。</p> <p>なお、主体性評価において、＜主体性＞と＜協同性＞は相反するものとは考えられていないため、これらを独立してものとして捉え、論じている解答は不適切な解答として低く評価される。誤字、脱字、原稿用紙の誤った使用法等のミスは、減点の対象とする。</p>